

第3回 大橋川改修技術検討懇談会 議事要旨

【日 時】平成20年9月22日(月) 14:00~16:00

【出席委員】

松江工業高等専門学校 環境・建設工学科 准教授	浅田 純作
松江工業高等専門学校 環境・建設工学科 准教授	大屋 誠
広島大学大学院 工学研究科 社会環境システム専攻 教授	河原 能久
中央大学研究開発機構 教授	福岡 捷二
国土交通省 中国地方整備局 出雲河川事務所長	林 正道

【議事内容】

(松江大橋について)

- ・ 松江は、特定観測地域にも指定されており、地震に対しては十分な検討が必要である。また、松江大橋にどのような性能を求めるのかということについて、今後、十分議論する必要がある。(大屋委員)
- ・ 現在の松江大橋がどのような状況であるのかを、市民の方に十分理解していただいたうえで、技術的な検討と共に、市民の方の意見を反映させながら松江大橋の取り扱いについて見極める必要がある。(福岡座長)
- ・ 松江大橋を存置し、安全性を考慮して補強した場合、宍道湖大橋を参考とすると、かなり太い橋脚となるため、景観という面からも整理が必要である。(大屋委員)
- ・ 今後、松江大橋の意見がまとまらない場合であっても、河川整備が出来ないということではなく、出来るところから始めて行くことが大事である。(浅田委員)
- ・ 大橋川改修と松江大橋の改修は、歩調を合わせて進んで行くことが大事であるが、歩調が少しずれても、相互にやりうるところから実施し、進めることに努力していただきたい。(福岡座長)

(懇談会のまとめについて)

- ・ ダム、放水路、斐伊川本川堤防、宍道湖・中海湖岸堤がほぼ出来あがりつつある中で、大橋川だけが進んでいない。流域全体のバランスを考えれば、大橋川改修は大変重要である。(福岡座長)
- ・ 計画高水位は将来に向けて、全ての河川整備の重要な基準であり、計画断面が完成した際には、計画洪水発生時の水位が計画高水位以下となる。しかし、改修の途上では、計画洪水より小さい洪水でも容易に計画高水位を越えてしまい危険な状態になる。したがって、少なくとも計画高水位の高さまでを、信頼性が高く維持管理が容易な土堤で整備することは、必要最低限の対応である。(福岡座長)
- ・ 大橋川改修の進め方は、はじめに上下流の狭窄部を拡幅し、まちづくりとの関係で堤防幅を決め、越水しないような築堤を行い、平面形状を確定する。2番目に、現状では昭和47年洪水規模で溢れることから、築堤により家屋の浸水被害を防ぐ必要がある。掘削については、塩分が中海から宍道湖に遡上するため、十分確認しながら行う必要がある。(福岡座長)
- ・ 効果の高い 1)上下流の狭窄部の拡幅・築堤、2)築堤による浸水被害の防止、3)河道掘削による水位の低減の順に整備していくべきである。3)は不確実なところもあり、その他を優先的に進め、その間に自然環境やシジミ等へ負の影響を与えないようデータ

を採取するなど、慎重に進めるべきである。(河原委員)

- ・ 松江のまちづくりの中で、松江大橋をどう位置付け将来へ繋げていくか、今しっかりと議論し将来ビジョンをつくるべきである。(大屋委員)
- ・ 松江の治水安全度は全国的に見て非常に低い状態である。平成18年度の低い洪水でも約2000戸が浸水している実情に対して、治水・橋梁・まちづくりの問題を総合的に考えることが重要である。(福岡座長)